

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 台風第6号については最新の台風予報を参照。
- 22日から24日にかけて、低気圧がオホーツク海を東進する
- 26日は、低気圧がアムール川下流付近へ進む。
- 太平洋高気圧は期間を通して本州付近に張り出す。

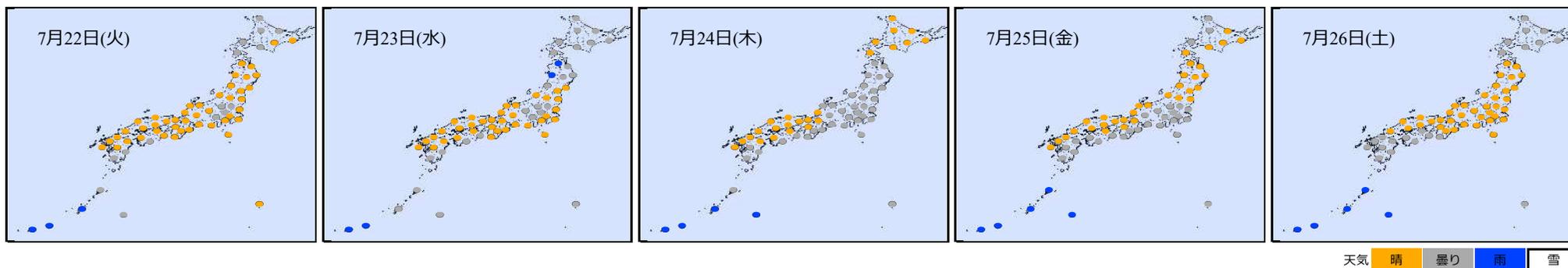
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 沖縄・奄美では、22日にかけて暖かく湿った空気の流れ込みの程度によっては、警報級の大雨となるおそれがある。
- 北日本から西日本にかけては、気温がかなり高くなり、最高気温が35度以上となる所がある見込み。熱中症など健康管理に注意。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

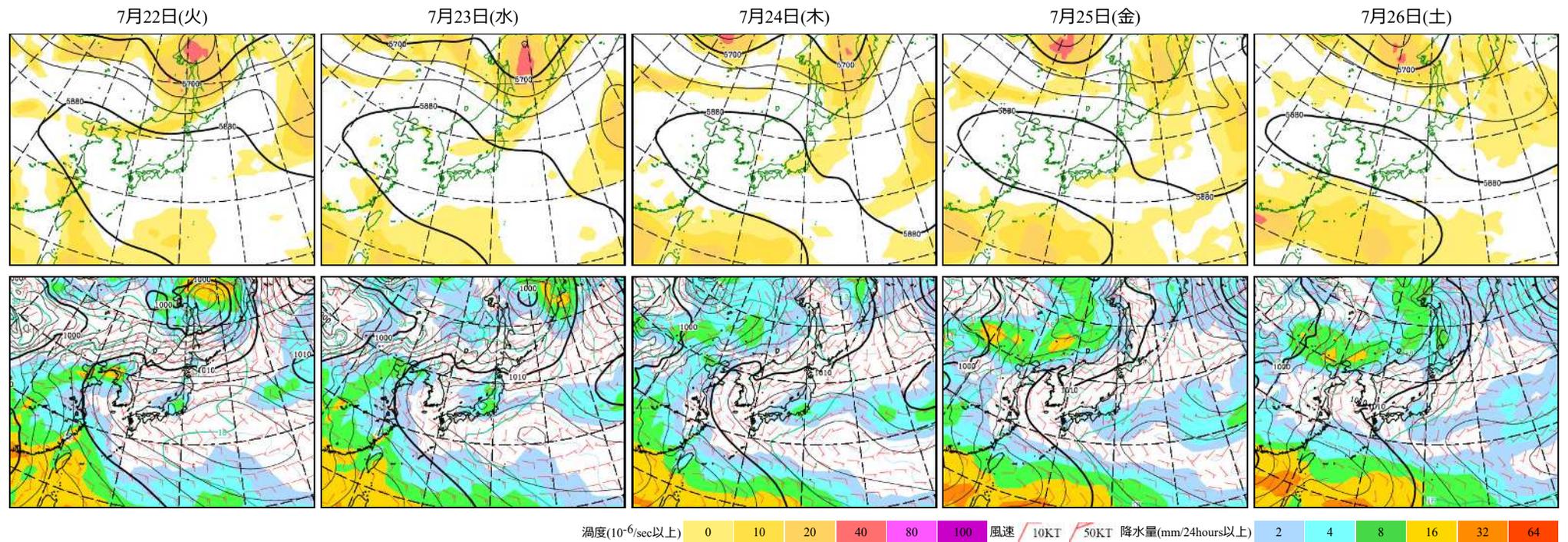
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

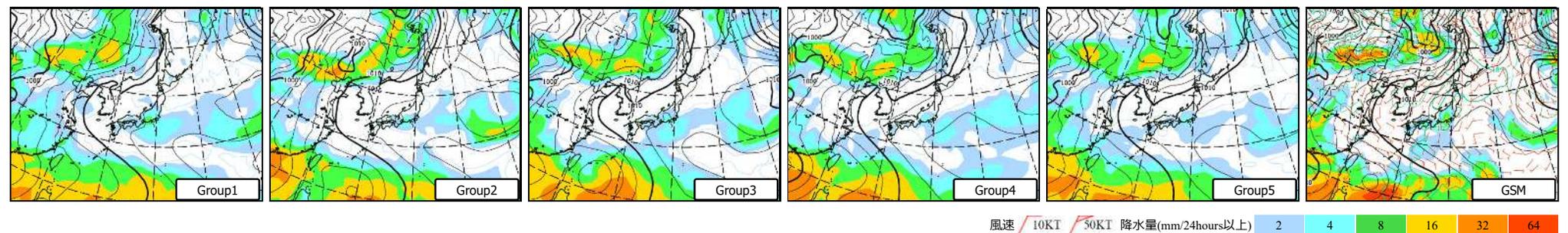


- 北日本は、曇りや晴れの日が多いが、23日は雨の降る所がある。
- 東日本と西日本は、晴れや曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆7月25日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、期間の後半は東日本付近でサブハイが強まり東北地方まで5880mに覆われる予想となった。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは特定高度線のばらつきが大きくなる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。
- 期間の後半は、沖縄の南や東シナ海に熱帯じょう乱を予想するモデルがあることに留意。

今日から明日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。